

○水生生物モニタリング調査結果一覧（阿武隈川河口沖K）

<阿武隈川河口沖K 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
K-3	○	○	○	○	○	○

<阿武隈川河口沖K 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質					底質		その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)		
K-3 (表層)	38.0458°	140.9518°	H29.6.27	08:25	08:34	19.8	12.2	砂混シト	5Y4/2	稚貝少々	21.0	2.3		
K-3 (下層)				07:53		12.7								

<阿武隈川河口沖K 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
K-3 (表層)	38.0458°	140.9518°	H29.6.27	08:25	8.2	1.1	3.4	8.9	4600	30.13	1.6	2	2.3	N.D. (0.00095)	0.0060	—
K-3 (下層)				07:53	8.0	<0.5	2.2	8.5	4970	33.38	1.2	4	2.5	0.0013	0.0091	0.0011

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<阿武隈川河口沖K 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)			
K-3	38.0458°	140.9518°	H29.6.27	08:34	7.4	-23	37.5	4.6	7.4	2.689	0.0	0.1	0.4	29.3	55.7	14.5	0.050	2.0	28	190	N.D. (0.13)

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<阿武隈川河口沖K 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム (Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
阿武隈川河口 周辺海域	阿武隈川河口 前面海域	—	—	H29.6.17	脊椎動物	硬骨魚	カサゴ	アイメ	<i>Hexagrammos otakii</i>	アイナメ	2	0.29	未成魚/成魚	エビ類	内臓除去	1.63	0.43	1.2	—
					脊椎動物	硬骨魚	カサゴ	フサカサゴ	<i>Sebastes cheni</i>	シロメバル	1	0.064	未成魚	エビ類	内臓除去	1.1	N.D. (1.2)	1.1	—
					脊椎動物	硬骨魚	カレイ	カレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>	イシガレイ	1	0.53	未成魚	貝類	内臓除去	0.47	N.D. (0.37)	0.47	—
					脊椎動物	硬骨魚	カレイ	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	ヒラメ	2	0.69	未成魚	カクチイソ	内臓除去	0.39	N.D. (0.27)	0.39	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	スズキ	2	1.9	未成魚/成魚	魚類	内臓除去	0.89	N.D. (0.33)	0.89	N.D. (0.015)
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	マハゼ	27	0.42	未成魚/成魚	—	—	2.36	0.26	2.1	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。